

上海市の現地校教育

前上海日本人学校虹橋校 教諭

神奈川県川崎市立大谷戸小学校 教諭 夏井 舞

キーワード：上海、現地校、算数、英語

1. はじめに

近年、上海市は世界第1位の学力を誇り、教育水準の高さが明らかになっている。上海日本人学校で担任をしていて、多文化家庭における中国国籍の母親の、学校への期待や熱心な教育理念を感じることもある。中国・上海ではどのような教育をしているのか、日本の教育との違いはどこにあるのかなどに興味をもった。上海日本人学校虹橋校では、毎年各学年で現地校との交流会を設けている。また、教職員の研修として、現地校の学校視察がある。この機会を有効に利用し、学習内容や指導方法を学びたいと考えた。

2. 中国・上海の学校

上海に赴任して感じたことは、多くの場所で英語が通じるということだ。上海は国際都市で、日本人だけでなく欧米人も多く暮らしているため、共通言語として使われているのだと思う。日本でも東京・大阪などの都市部では、ビジネスで使われたり観光業界では必要であったりする。しかし、日本と違うと感じたのは、校内の行事の1つである「現地校交流」の中で、日本人学校の子どもの同じ学年の上海の子どもが流暢な英語を使っている姿を見たときである。現地校の子どもたち全員が同じように流暢な英語を話すわけではないが、圧倒的に語彙が豊富であると感じた。国際人としての資質を求められる今、上海の学校の教育課程や指導方法から学ぶものがあれば、これからの指導に役立てたいと思った。

中国の学校は、欧米諸国と同様で9月に新年度がスタートする。小学校・中学校合わせて9年間の義務教育である。学習指導は教科担任制となっている。学習内容は概ね日本の学校と同様で、上海市教育委員会が規定しているものに準じて教育課程が組まれている。しかし、外国語の学習は高学年だと週に5時間行われるなど、時数の配分については日本と異なる部分も多い。また、各校に特色ある教育課程や取り組みが行われている。例えば、プロさながらの映像制作スタジオの設備が整っていて、クラブや選択授業などで活動が行われていたり、ICT教育に力を入れていてパソコンソフトを使った絵画の学習があったりする。教科や内容は、地域や学校によって異なる。

3. 外国語第一小学校の視察より

(1) 数学（算数）

1年生の授業を参観した。「倍と半分」という内容の学習だった。視察時は12月末であったため、1年生は入学してから3ヶ月程度という時期である。加法の学習から乗法の学習へつなげる内容であると考えられるが、日本の算数学習とは少々異なる指導法だと感じた。日本の教育課程で入学後3ヶ月頃の1年生の学習という、加法・減法を学習し、1～20程度の数の学習をしている頃である。まだかけ算の概念は学習していない。かけ算九九は第2学年の学習内容である。その時期に、上海の小学校1年生



は乗法につながる学習内容に入っていることは、教育水準の高さや学力の高さにつながるのではないかと感じた。一方で、小さなおはじきのようなものを使って数を表したり、操作をしたりする活動は、日本のブロック操作と同じである。低学年では具体物の操作が大切であることは日本も中国も同じであるようだ。

(2) 英語

通常の学級が40人で編成されているが、英語の授業では半分の20人で行われるクラスもあるとのこと。やはり少人数での指導は有効であるようだ。授業は、実際の生活場面を想定した会話を中心に行われている。今回の視察時は、好きなものをたずねる会話を学習していたが、‘Do you like ~?’だけでなく、その質問につながる話題に沿った会話も紹介されていた。実際の生活場面であレンジして使うことができそうだと感じた。また、上海では小学校卒業までに700以上のワードを覚えるそうである。語彙力が会話力にもつながっていると感じた。



授業だけでなく、校舎内のいたるところに英語表記による掲示がされていた。廊下や階段にある注意喚起の掲示だけでなく、世界各国の象徴となる建物やことわざなどが英語で書かれている。これらは、日常的に外国語に慣れ親しむことのできる環境である。言語だけでなく、世界の国や文化も同時に学ぶことができ、外国や外国語に対する壁は感じにくくなると思う。外国語の習得には、授業の時数や内容だけでなく、日常の環境の中にも取り入れていくことが大切と感じた。

4. 宋慶齡学校との現地校交流より

上海日本人学校虹橋校では、どの学年も現地校との交流会を行っている。学校の特色の1つである。私が担任をした5年生は「上海宋慶齡学校」と交流会を行った。この宋慶齡学校とは、上海市の公営学校ではなく、いわゆる私学である。そのため、前出の外国語第一小学校とはまた違ったカリキュラムであり、学習にも相当力を入れた指導を行っているようである。宋慶齡学校へ訪問しての交流会となったが、始まり会では子どもたちが、中国語・英語・日本語の3か国語で司会をしていた。一緒に交流した日本人学校の子どもたちもとても驚いていた。学校長の話では、宋慶齡学校の高学年では週5時間英語の授業があるとのことだった。日本の国語や算数と同じように毎日授業が行われるということは、それだけ継続的な反復学習ができるということだ。



以前の現地校交流では、宋慶齡学校の普段の授業を一緒に受けさせていただいた。その際の算数の学習では、ICT教室に入り、数列を解く問題やトランプを用いたパズルのような課題に取り組んだ。どちらも、数学の原理は小学生でも理解できる内容だが、レベルは高く感じた。宋慶齡学校の子どもは暗算のスピードが速く、考え方も多様で、頭の柔らかさを感じた。普段の学習スタイルとしての「慣れ」もあるかと思うが、中国ではかけ算九九が2けたの段までであると聞いたことがあるので、そういった学習内容の違いからも学力のつき方が変わってくるのだと感じた。

5. おわりに

現地校交流や現地校視察研修等で上海市内の小学校をいくつか見る機会を得て、日本の学校で当たり前だと思っていた学校環境は特殊な環境であったことが分かった。授業中の返事の仕方や手の上げ方、体育授業での座り方など、細かなところもたくさん異なる点を見ることができた。学習面では、算数教育と外国語教育について特にたくさんの学びを得ることができた。指導法やカリキュラム、教科担任による指導などは、学習効果が高いと感じられる取り組みであった。日本の学校でも取り入れたい部分である。

私が上海の学校のよさを感じるのと同じように、上海の学校の先生方も日本人学校や日本の学校のカリキュラ

ムや指導方法、行事を重んじる心などに感銘を受けていると聞いた。日本人学校と交流のある現地校は、日本の教育スタイルを取り入れた教育改革を進める学校もあるそうだ。日本と中国、互いの国のよさを認め合い、子どもたちのための教育を進めていけるといいと思った。私もその一助となるよう、これからも尽力していきたい。